様式１　学校評価表（令和４年度）

学校教育目標	幸せに生きる力を育む高須小教育～Zest for Life～　校訓：自彊・至誠・夢～

a　ミッション	中学校区で取り組む「志プロジェクト」の推進～自立・協働・創造～	a　ビジョン	静と動の融合！頼れる教師！風格ある学校！ 「学びを変革する」、「連携・協働する」、「信頼・期待される」教職員集団

自彊・至誠・夢　高須　Zest for Life

尾道市立高須小学校

評価計画						自己評価					学校関係者評価				改善計画
	b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月 g 達成値	1月 g 達成値	h 度達成	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価 イ	ロ	ハ	l コメント	m 改善案
幸せに生きる力の育成	主体性・協働性・表現力の育成	○見方・考え方を働かせて考え，表現できる児童の育成。 【主体性】【表現力】【協働性】	①「深い学び」のある授業づくりに関する授業研究の推進。 ・「高須小授業作りの３つの工夫」の実施。 ②基礎学力と自己肯定感（学習意欲）を高めるモジュール授業の実施。 ・国語科，算数科の反復学習の継続的な実施。	①学力定着状況調査（算数科の正答率） ②算数科単元末及び学期末テスト（80点以上の児童の割合） ③モジュール授業に関する児童アンケート（肯定的回答の割合） ④「尾道版『学びの変革』」推進事業 児童アンケート（肯定的回答の割合）	①昨年度以上 ②80% ③80% ④80%	①101% ②94% ③2学期実施 ④114%	①101% ②92% ③105% ④114%	103%	B	目標達成のための２つの方策を実施したことで学力の定着が図られてきている。教員が共通認識をもち授業作りを進めることができたこと，モジュール授業によって児童の自己肯定感が高まったことが要因であると考える。 課題としては，80点以上の児童の割合80%を達成できなかったことである。80点を達成させるために，「何をどのように教えるべきか」という単元の見通しをもって授業を進めていくということが不十分であった。	○3名			・基礎基本学習を大切に行ってほしい。 ・タブレット学習を上手に使ってほしい。 ・通信技術やスマートフォンの普及によって様々な情報に簡単にアクセスできるようになり，児童がその気になれば深く学べるようになっている。最短で学ぶことができるが，最短では面白みがない。インターネットなどを使わず遠回りした人だけが見つけることができる小さな楽しみを感じるような授業を進めてほしい。 ・モジュール授業の実施はすばらしい。自己肯定感と学力が高まり，「幸せに生きる力」につながると思う。 ・「自分はできる」と思わせることによって自己肯定感が高まり，学習意欲の向上に結びつくと思う。 ・数字に表れた結果だけに左右されず，来年度も継続して取り組んでほしい。	・効果的なタブレットの活用について教職員で研修や交流をする。 ・今後も継続して目標達成のための方策を実施していく ・方策や指標をさらに明確にし，取組を学校全体のものとして定着させる。 ・基礎・基本の定着を図り，自己肯定感が高まる取組を今後も継続していく。 ・モジュールの計画を精査し，モジュールと単元学習の関連を強化していく。
		○集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的，実践的な態度の育成。 【主体性】【協働性】	○児童会執行部や各委員会，学級会を中心とした児童主体の活動の計画及び実施。 ・挨拶表彰，清掃表彰の実施。 ・児童が企画運営する行事や活動の実施。 ・学級の課題を見つけ，解決策を考え，実行し，振り返る活動の実施。 ・学級の友達の良いところ・良い行動を認め合う活動の実施。	①夢キラチェックの児童自己評価（達成割合） １．挨拶レベルの達成割合。 ２．無言清掃の達成割合。 ３．持ち物５点セット達成割合。 ②あいさつに関する保護者（地域）アンケート（肯定的回答の割合） ③児童アンケート「自分にはよいところがある」（肯定的回答の割合）	①80% ②80% ③90%	①106% ②94% ③94%	①105% ②95% ③96%	99%	B	目標値とほぼ同程度の達成であった。児童会執行部や各委員会，学級会が活発に動き始めていることは感じるものの，まだ結果の数値に表れるには至っていない。 課題としては，各委員会の新たな活動の提案が２学期以降になっていることがあげられる。来年度は１学期からそれぞれの委員会の目標達成に向けて活動内容を見直し，実行し，ふり返り，新たな計画をするというPDCAサイクルを児童が回していけるように仕組んでいく必要がある。	○3名			・児童が企画運営する行事や活動に重点を置いて，それを教職員がサポートし，どれぐらいの人間関係が築いていけるのか，まだ児童主体での育成ができるのかが気になる。 ・自分や相手の良いところを見つけられることは大切なことだと思う。人間関係を築く上でとても評価できる。 ・自分を好きになると他の人にもやさしくなると思う。学級会等を中心に今後も取り組んで頂きたい。 ・児童アンケートのあいさつに関する肯定的な回答が多い。児童会活動等で工夫してさらに高めてほしい。教職員アンケートも実施し，子供の思いと教職員の思いを比較してみるとよい。 ・今後も様々な取組にチャレンジしていけばさらに良い結果が出てくると思う。	・児童が主体的に活動できるように，委員会活動の進め方を工夫する。 ・「良いところみつけ」など自己肯定感を高める取組を推進していく。 ・委員会活動，学級活動を中心として，児童が主体的に学校の課題を改善していく取組を進めていく。 ・家庭や地域を巻き込んで，あいさつを広げ，自己肯定感を高める。 ・自己肯定感を高めるために，役割を与え肯定的に評価することを繰り返し，児童の自己有用感を高める働きかけを行う。教職員が意識して児童の行動を肯定的に評価していく。
		○友達と競い合い，励まし合いながら体力の向上を図る児童の育成。 【主体性】【協働性】	○全校で取り組む体育的行事や集会活動の実施。 ○外遊びや体力を高める運動の紹介及び推進。 ・走力を高めるトレーニングの実施。	①体力テスト「５０m走」の平均タイムが全国平均以上の学年の割合。 ②児童アンケート「外遊びを１日に１回以上する」児童の割合	①67% ②80%	①0% ②91%	①49% ②86%	68%	C	コロナ禍で制限がある中で，できる限りの行事，外遊びの推進をしたものの，目標値の達成には至らなかった。多くの児童は体の成長に合わせて記録の向上が見られるものの，運動不足による体力低下が見られる児童もいる。 課題としては，定期的で継続的な運動機会の減少が考えられる。来年度に向けて定期的に児童が運動することのできる取組を立案していく。	○3名			・体力の向上のためしっかりと身体を動かしてほしい。 ・標高差６０メートル近い学校に毎日歩いて通う地の利を生かすことはできないのかと思う。学校に送迎されている児童がどれくらいいるのかも気になる。 ・外遊びの重要性を考えるとコロナ禍で制限があったことが原因であると思われる。外遊びの楽しさを感じ，「外に出たい」と思い，身体をしっかり動かしてほしい。 ・食生活の改善など別のアプローチが必要なのかもしれない。運動を「楽しい」と思えるような様々な工夫をし，学校の総力を上げて「走力」の向上に取り組んでほしい。 ・焦らずじっくりと取り組んでほしい。	・「運動が好きな児童」に育てていくための取組を推進していくとともに，体力向上に関する授業改善を図る。 ・日々取り組むことができる運動、体育の授業前の運動、マラソン大会に向けた運動など、さまざまな体の動かし方や体力向上のための運動を児童に伝える。 ・児童が「外に出たい」と思う取組を児童とともに企画・運営していく。 ・保健指導や給食指導とも関連を強化し，児童の体力向上に努める。
	連携・協働する組織づくり	○学校全体でベクトルを揃えた学校運営の実現。 【連携・協働】	○主任・主事を中心とした組織としての目標設定及び方策の進捗管理の実施。	①教職員アンケート「学校運営に参画している」の肯定的回答の割合。 ②各種定例会議の実施率。（経営会議・学年会：月に２回）（その他会議・委員会：月に１回）	①昨年度以上 ②100%	①112% ②100%	①98% ②100%	99%	B	市内の働き方改革アンケートの「学校運営に参画している」項目では肯定的回答が減少した。各種定例会議は計画的に実施することができている。 課題としては，「学校運営に参画している」という意識がもてるように，特に計画立案を主体的に行うことができる職場環境にしていくことが必要であると考える。新しいことに挑戦したい，失敗することができる，と全ての教職員が感じることができるように，伝え続ける必要があると考える。	○3名			・これだけの人数のベクトルをあわせていくのは大変なことだが，小さな，そして些細な意見を拾っていくことで可能になると思う。この学校の良いところは団結力があるところだと思う。笑顔で楽しい組織づくりを期待している。 ・ホームページ，アプリなどを活用して学校運営や各種会議，保護者への連絡等を行うことが必要だと思う。 ・児童としっかりと向き合う時間がとれるように引き続き業務改善を進めてほしい。 ・新しい取組に教職員が一丸となってチャレンジしていると思う。	・情報が確実に伝わるような，情報共有の方法を工夫していく。ホワイトボードや紙媒体の従来の方法に加え，タブレット端末等のICTを効果的に活用していく。 ・「児童に向き合う時間の確保」を目標に，次年度以降も業務改善に取り組む。 ・新しい取組を創造し，チャレンジを続けていくことのできる職場環境を整備する。 ・各行事や取組の振り返りを充実させ，次に生かしていくことができるようにする。

【自己評価　評価】
Ａ：１００≦（目標達成），Ｂ：８０≦（ほぼ達成）＜１００，Ｃ：６０≦（もう少し）＜８０，Ｄ：（できていない）＜６０

【外部評価】
イ：自己評価は適正である。　ロ：自己評価は適正でない。　ハ：わからない。